



慶應義塾大学ビジネス・スクール

「そのディスカッションに意味があるのですか？」5

— MBA 学生相馬みなみの憂鬱 —

MBA 課程 1 年の相馬みなみは周囲の仲間たちの考え方には強く違和感を抱くとともに、そんな仲間たちの中で一人浮いてしまう自分に深く悩んでいた。環境に適応できていないことは十分わかっていたが、具体的にどう考え、行動すれば良いのか途方に暮れるなかで次第に自分の存在意義について悲観的に考え、空虚感に浸りながら言葉にならない叫びのようなものをひたすら内にため込んでいた。

10

15

相馬みなみのバックグラウンド 大学進学前まで

相馬みなみは地方の辺鄙な地域で生まれ育った。慌ただしく過ぎ去る都会の時間の流れとは異なり、まるで止まっているかのようにゆったりとした時間の流れの中で十数年も過ごしてきたせいか、相馬は穏やかでのんびりとした性格であった。父親は工場労働をする傍らで農業も営んでいた。農業はほとんど趣味のようなもので、毎日水田の見回りや草刈りをすることを楽しみとしていた。母親は家事の傍ら、昼間は小さな花屋を半ば趣味として営んでいた。相馬には年の離れた姉と兄がおり、2 人とも地方の国立大学を卒業し、高校の教員となっていた。

20

小学校 2 年生の時に転校をした際、なかなか新しい学校になじめず、常に仲間外れにされていたせいか、相馬は周囲から見れば異様なほど神経質な子どもであった。小学校高学年の頃には毎日のように胃のむかつきと吐き気を感じ、いつも胃薬を持ち歩いていた。また、ある時から年の

25

本ケースは MBA 学生が法政大学大学院教授高田朝子の指導の下、クラス討議の資料とするために作成したものであり、経営の巧拙を例示するものではない。組織名、個人名、および事業に関する事実は偽装されている。著作権は慶應義塾大学ビジネス・スクールに所属する。

30

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。